

フクロウとの生活

Maddy

朝、5時に目覚ましがり鳴り二階のリビングに上がる。照明をつけると、キョロキョロと頭を動かしながら飛びたそうにしているフクロウ。繫留を外すと真っ先にテレビの上に移動し、その後北東のコーナー南西のコーナーの止まり木に移動し、最終的にキッチンの冷蔵庫近くの棚に止まり、餌鳴きを始める。冷蔵庫から解凍した餌を取り出し、リビングに移動して食事を与える。食事後フクロウは飛び回る。その姿を横目に私はソファで二度寝をする。再度6時半頃目が覚めると窓際で太陽が完全に上がった空を見つめながらうつらうつらしているフクロウがいる。二〇二〇年三月、ある一日の話である。

フクロウに出会った。二〇一九年十月に人生で初めてフクロウカフェに行った。フクロウと触れ合い、あらゆる要素が詰め込まれた生感に魅了された。フクロウは猛禽類であり、鳥類のピラミッド構造の中でもトップにいる鳥である。獍猛なイメージを持つが、普段はあまり動かず止まり木に何時間も留まる。フクロウカフェには鷹やチョウゲンボウ、ハヤブサも含め十五羽ほどいた。中でも窓際の外からよく見える位置に繫留されていた一羽のフクロウが気になった。帰宅後SNSでフクロウカフェのことを調べていたら、そのフクロウの里親を募集していることを知った。すぐに問い合わせを聞いた。フクロウの種はアフリカオオコノハズク。フクロウの中でも小型に分類されている。耳のような羽角がついており、目は透き通ったオレンジ色。輪郭にそって生えている黒い毛は可愛さをぐっとアップさせる。口の周りにはヒゲのような毛。灰色のマントをまとったそのフクロウは、
◎回目に出会った時も窓際におりじつと外を見ていた。一体何を一生懸命見ているのだろう、このフクロウのことをもっと知りたくなった。

フクロウを迎えた。二〇一九年十二月アフリカオオコノハズクの里親になった。同年九月に一軒屋を購入した私はペットを飼いたいとずっと思っていた。一目惚れ、里親募集、色々なことが重なり、フクロウを飼うことを決意し迎えたのだ。家の窓から見える風景がこの子を見せてあげたい、その思いが強かった。フクロウの名前はアモ。前の飼い主さんが見つけた名前、どうやら天羽と書いてアモと呼ぶらしい。名前は引き継ぎ、アモをあもとひらがなで表現することにした。

朝、8時仕事に行くためあもを止まり木に移動し繋留させる。繋留する場所は窓際に位置するテーブルの上。外を観察することが好きなあものためにこの場所にした。夜行性なので日が上がると大人しくなり繋留してもあまり動かずボーッとしている。監視カメラをセッティングして完了。行つてきます。

あもを家に連れ帰った初日、緊張や不安があったため、リーシュを短くして止まり木に繋留していた。フクロウの独特な動きをご存知だろうか。まるで周りの世界を3Dスクリーンするかのよう機械的に動く首、首は二七〇度回すことができる。新しい場所で情報処理に追われるあもは時々飛び立とうとするけど繋留しているため飛ぶことはできない。私は不安のため同室（リビングのソファ）で一晩過ごした。一晩中ガサガサ動いていた。羽ばたく音も聞こえた。

翌日の朝、あもを窓際に移動させ一緒に日の出を見た。十二月、日照時間の一番短い季節、朝日をじっと見つめるあもに引き込まれる。これから先何年一緒に生活していけるだろう。病気や事故がなかったら十五年以上生きられるそうだ。初めて一緒に生活する鳥類。大事に育てていかなければならない。あもを迎えるまでにたくさん本を読み、ネットで情報収集し、色々なフクロウカフェへ行き店主に飼育相談をした（現在もずっと行っている）。鳥類の幸せってなんだろう。そんなことを考えながら私はうつらうつらしていた。あもも眠そうな表情になっていた。夜行性なもの、そろそろお休みの時間だね。

昼、監視カメラに写るあもを確認する。トイレ休憩と称し一日に何度も見てしまうストーカー気質な飼い主。カメラに写るあもは大抵後ろ姿だけど、たまにカメラ側を向いている時は嬉しくて写真や動画を撮る。大抵寝ているが、起きている時は相変わらず羽繕いしたり、身体を脚で搔いたり、あくびをしたりくつろいでいる様子。時々鳥の鳴き声や飛行機の音に驚き身体を細めることもある（フクロウは外敵を見ると細くなる性質がある。木に擬態化しているのだ。逆に威嚇のため羽を広げ大きく見せることもある。本当に色々な姿を見ることができ面白い）。

夜、19時帰宅。暗闇の中電気をつけるとこちらを見るあも。まだ繋留されているにも関わらず飛び立とうとする。はいはい、とリーシュを外す。飛び立つあも。夜も朝と同様真っ先にテレビの上に移動する。それから南と北の窓を交互に移動して外の見回りをしてくれる。そう、あもは我が家の自宅警備員なのだ。私はいそいそと餌の準備にとりかかる。気づいたあもはキッチンに来て肩に止まってつまみぐいしようとする。餌の準備が完了したので食べてもらう。至福のひとつときである。食事が終了するとあもはお気に入り止まり木に移動し、木に嘴を擦り付けてきれいにする。人間でいう歯磨きのような行動だ。そ

の後眠そうな表情になり寝始める。

一緒に生活をし始め三ヶ月経過した。今でも沢山の情報を求め色々調べている。この期間、無知によりあもに可哀想なこともしてきた。鳥類は空気に敏感、調理時換気を徹底しなければならぬ。消臭剤やアロマオイルなどもダメ。アルコールは肝臓に負荷がかかるらしい。知らずに使っており、知ったとき申し訳ない気持ちになった。現在は徹底し成分を確認するようにしている。

あもの二年五ヶ月ほどの鳥生、どうだったのだろうかとう想像する。一歳まで前の飼い主さんと生活。窓際にあもを繋留していたそう。やむを得ない事情でフクロウカフェに預けられ、一年ほど色々なフクロウや鷹達と一緒に生活。当初ストレスが多かっただろう。大きな身体、フクロウや鷹が、なんだこの新参者つというような目でこちらをみて、色々な声で鳴いている。でもあもは強いフクロウだ。果敢に大きいフクロウ相手に威嚇することもあったそう。フクロウカフェに来るお客さんに撫でられることもある。初めて私がフクロウカフェに行った時、あもを撫でようとしたら嘴を出してきたのであまり触れられなかったことを思い出した。アフリカオオコノハズクの前に手を出すと嘴が飛んできやすいらしい。ただ攻撃力は低くあまり痛くはない。お店の中では飛ぶことはなかっただろう。日中ずっと繋留、夜はゲージの中。時々飛んでいたのかな。初めて家に迎えた時家の中を飛んだが、本当に上手に飛んでいた。現在家では日中以外放鳥を心がけている。たくさん飛びまわり自由を知って欲しいからだ。このお家は住み心地いいですか？ そう、あもに聞いてみたい。

夜、11時半寝る時間なのであもを止まり木に繋留する。この時間になるとあもはさらに活発になり窓の外の風景を一生懸命みている。繋留後も飛び立とうと必死に羽ばたいているが、だいぶ経つと落ち着く。監視カメラをセットして一階の寝室へ。おやすみなさい。夢を見た。私はなんと、あもの言葉が理解できるのだ。そしてこの能力は誰かにバレたら無くなってしまうらしい。だから私は夫にも友達にもいうことができない。二人だけの秘密。この能力を知った時私はとても嬉しい気持ちになった。色々あもに聞こうと思った。しかしそこで目が覚めてしまった。今でも同様の夢を見ることはあるが、何か質問しようとするといつも目が覚めてしまう。

あもの幸せについて考える。ペットにとって完全な自由は幸せとは言えないと思う。放鳥の事故を考え（誤飲など）繋留する。ロスト（屋外に飛んで行き戻れなくなる）、家を失って帰れなくなると天敵が多く餌も探さなければならぬという環境では生きるこ

とは難しい）を考えてリーシュを持って外に出る。人の生活圏にいる動物は、こちらが気をつけなければ長生きできない。餌の質も考え、空気を考え、定期的な水浴びで清潔にし、家の掃除も欠かさない。色々な覚悟を持って飼育しなければならぬと飼ってから実感した。

あもは規則正しい毎日を望んでいる節がある。少しズレると食欲が減ったり運動量が減ったりすることがある。週末以外はなるべく生活リズムが崩れないよう、残業もなるたけせずそそくさと家に帰るよう心掛けている。この生活のリズム、嫌いじゃない。こんな毎日が十五年以上続きますように。